



ふるさと美郷への思いをはせる 中部関西地区美郷町ふるさと会

2月24日、名古屋市内の会場で中部関西地区美郷町ふるさと会の総会と懇親会が開かれ、会員24名が参加しました。

町からは、松田町長、高橋議長らが来賓として出席し、会員の方々と情報交換を行いながら交流を深めました。懇親会では、賑やかにも和やかな雰囲気の中で思い出話に花を咲かせ、会の終盤には全員で「美郷町民歌」を合唱してふるさと美郷への思いをはせました。

はばたけ!郷土秋田の防人達 平成24年度自衛隊入隊予定者激励会

2月26日に平成24年度大仙仙北美郷管内自衛隊入隊予定者激励会（大仙仙北美郷自衛隊父兄会連絡協議会主催）が美郷町公民館で開催されました。今年度の管内の入隊予定者は19名。会では来賓や先輩隊員からの激励の言葉が述べられたほか、小野寺防衛大臣や自衛隊体育学校メダリストからのビデオメッセージが放映されました。多くの激励を受け、入隊予定者を代表して佐藤葉さん（大仙市出身）が「国の平和、世界の平和に貢献できるよう、それぞれの職務に責任を持ち、秋田県人としての誇りと粘り強さを発揮し、立派な自衛官、社会人になれるよう頑張ります」とこれからの抱負を述べました。



一年間、楽しく活動できました 平成24年度美郷町 スポーツ少年団交流会及び解団式

3月16日に美郷総合体育館リリオスでスポーツ少年団の交流会と解団式が行われ、22単位団から約270名の団員が参加しました。交流会では、5本の綱を引き合い、よりたくさんの綱を引き寄せたチームが勝つという「五色綱引き」が行われ、無我夢中で綱を引き合い、団を越えて楽しく交流する団員たちの姿があちこちで見られました。引き続き行われた解団式では、美郷町スポーツ少年団本部長の橘正幸さんが「みなさんの中から将来のオリンピック選手が誕生することを楽しみにしています」とこれからの活躍に期待を寄せ、大きな事故なく一年間の活動を終えたことを喜び、合わせて指導者、保護者の労をねぎらいました。



歌声やおどりを楽しみました 第24回全県素人うたとおどりの 美郷フェスティバル2013

3月17日に美郷町南体育館で第24回全県素人うたとおどりの美郷フェスティバル2013（同実行委員会主催）が開催されました。今年も県内各地から多くの参加があり、予選を勝ち抜いた総勢60名が「カラオケの部」「新舞踊の部」「民謡の部」の3部門で自慢の「うたとおどり」を披露しました。町内の受賞者は次のとおりです。

- | | | | |
|----------|--------|-----|-------|
| 【カラオケの部】 | 第3位 | 大久保 | アツ子さん |
| | 審査員特別賞 | 西鳥羽 | 和幸さん |
| 【新舞踊の部】 | 第2位 | 石川 | 洋子さん |
| | 第3位 | 伊藤 | 伊津子さん |
| 【民謡の部】 | 審査員特別賞 | 佐藤 | 芳弘さん |



思い出と期待を胸に 町内幼稚園・保育園卒園式

3月16日に町内各幼稚園・保育園で卒園式が挙行政され、合わせて147名の卒園生に園長先生から修了証書が手渡されました。その後は全員で呼びかけや歌の発表を行い、思い出がたくさん詰まった園での出来事を振り返るとともに、新しい小学校への生活に期待を込めました。各園の卒園者数は次のとおりです。

千畑幼稚園・保育園（なかよし園）	45名
六郷幼稚園・保育園（わくわく園）	42名
仙南幼稚園・保育園（すこやか園）	60名



新たな羽ばたき

美郷町長 松田知己

風



町議会定例会で行政報告を行う松田町長

さあ、新年度がスタートです。特に進学や就職で新生活をスタートさせる方には、まさに期待の春。きっとたくさんの方との出会いがあります。そしてその出会い、どうか一つひとつを大切にもらいたいと思います。その出会い、もしかすると縁となる大切な出会いになるかも知れません。

なぜそんなことを申すかというと、この春、美郷町が一つの出会いを縁にした具体の形を皆さんに提示できるからです。そ

れが日本航空株式会社との連携です。4月4日、町はJALと協定を結びます。この小さな自治体が、日本を代表する航空会社と協定を結ぶなんて、びっくりでないですか？

実は昨年、本町出身の方がJAL秋田支店長に就任しました。なんと後松教育長の教え子とのこと。そこで私もお会いさせていただきました。そしてその出会いが協定に繋がりました。かねてより民間企業との連携を考えていた私は、厚顔にも「町づくりに力添えいただけないか」とお願いしました。支店長は無茶とも思えるそのお願いを受け止め、本社と協議してくれました。熱意をもって支店長が調整してくれたお陰でこの度の協定が相整いました。

美郷町はこれまで、交流人口

の拡大に取り組んできました。はじめは東京都大田区などとの自治体交流、次に秋田大学などとの教育・研究機関交流、そして民間企業との交流。それは定住人口が減少する中、交流人口を増加させることで町内外での人・物の動きを活性化させ、町勢の向上に繋がりたい。そして多様な交流の中に、次なる新たな展開の可能性を生み出したいからです。結果的にそれは、町民の美郷町への誇りに繋がります。そして町外での美郷町の認知度の向上にも繋がると私は信じています。

この度の交流では、第一弾として既に10組の親子がJALから招待され、普段は見られない整備場などを見学しました。今後は、子供を対象にした出前講座の開催や植樹などへのJAL社員のボランティア参加など、協定に基づき広く活動展開していただく予定です。学校再編をほぼ終えた美郷町、この4月、新たに羽ばたく方々とともに、JALの翼で羽ばたきたいと思